

■（７８）漢字を話し言葉で説明できますか？

松本清張の小説「砂の器」では、山陰のある地方の方言が東北弁と似ていることが重要なカギを握っていた。そんな山陰地方での電話取材での出来事だった。ある人の名前の漢字を聞き取りたかった。「井戸の井ですか？」。年配の相手は「ちがう。だから…」。

実は「江戸の江」だった。未熟者には、「い」なのか「え」なのか、うまく聞き取れなかった。「井戸の井、それとも江戸の江？」と繰り返すばかり。「井桁の井ですか」や「さんずいの工場の工と書く江ですか」と聞けばすぐにわかったはずなのに、だ。恥ずかしい。

キーボードでひらがなを打ち込んで、「変換」ボタンを押せば漢字が出てくる時代。しかし、筆記試験はそうはいかない。パソコン持ち込み可は極めてまれだ。となると、解答欄に漢字を正しく書けるかどうかは、見た目でも大きな違いになる。漢字はひらがなより文字数を節約できるので、同じ欄により多くの情報を盛り込める利点もあるはずだ。

パソコンや携帯で通信できない時、記者は電話で漢字の説明を加えながら原稿を送っている。教室の作文発表でも同じことをやれば、いつもと違う漢字の勉強になるかも（山）